ブータン王国パロ県の農村集落チュバ及びアツォにおける 伝統住居の屋内平面空間構成に関する研究

各部屋の現地ゾンカ語呼称と用途に着目して

A STUDY ON THE SPATIAL ORGANIZATION OF FLOOR PLANS OF TRADITIONAL BHUTANESE HOUSES IN TWO VILLAGES CHUBA AND ATSUO, PARO DZONGKHAG, KINGDOM OF BHUTAN

Focusing on the name of each room/space in local Dzongkha language and room use

磯野 綾*, 吉村 晶子**, 金子 将大***

Aya ISONO, Akiko YOSHIMURA and Shota KANEKO

This study aims to understand spatial organizations inside traditional Bhutanese houses through an empirical survey in Paro, Western Bhutan, on the uses of rooms and their names in Dzongkha. The results indicate that the main floor includes an intermediate space (*Bako* in Dzongkha), a living room (*Youkha*), and an altar room (*Choshom*) with an inner altar room (*Tshamko*). The window side in the *Youkha* is the primary place for the view and breeze, and traditionally had precedence. Some local Dzongkha room names differ from English names in that they express the spatial placement of rooms rather than their functions.

Keywords : *Bhutan, Traditional Houses, Floor Plan Layout, Room Name, Field survey, Spatial Recognition*

ブータン, 伝統住居, 間取り, 部屋名, 実地調査, 空間認識

1. 研究の背景と目的

1-1. 研究の背景と目的

ブータン王国では生業と生活、仏教文化、生活文化に支えられた文化的景観を保持する伝統的農村集落が多く残されている。

しかし、そのブータンにおいても近年ではグローバル化とともにいわゆる近代化が押し寄せてきており、都市化と集中^{注1)}、車やテレビなどの近代的利便機器の急速な浸透^{注2)}など、変化に直面している。一方、住宅建築では都市部においては木、土、石などの従来の建材を用いた古い伝統住居のほか、コンクリートを使用した現代建築が建てられるようになっている。また急速な都市化^{注3)}の為に、団地化した集合住宅も登場し、急傾斜地に建つ違法建築^{注4)}も散見される状況となっている。さらに、近年の土地所有制度の変更で最小敷地の制限が緩和され土地の細分化が可能となり、利活用が難しい微小敷地が増加するなどの問題も発生している。このため、材料ばかりでなく、空間の持つ意味や質も変化してきている可能性がある。機能重視で周辺の文脈より切り取られ断片化した空間の発生や、仏教的倫理観のもとで環境内存在^{注5)}として生きてきたブータン人であれば本来望まないであろう変化が今後もたらされるなどの懸念がある^{注6)}。これらの社会的背景のもと、本研究は、ブータン伝統住居の屋内

空間に対する居住者の空間認識や各室の意味を考察するための基礎資料とするため、同国西部のパロ県内にあるチュバ集落及びアツォ集落に今も残る伝統住居を対象に、その間取り及び屋内空間構成を実測・実地調査により記録として残し、さらにヒアリング調査により①各部屋の使われ方の具体的事例②屋内空間の基本構成と各室の現地ゾンカ語呼称を明らかにすることを目的とする。

1-2. 既往研究からみた本研究の意義

住居の間取りや屋内空間構成に関する調査研究は本国内外を問わず数多くなされており²⁾³⁾⁴⁾⁵⁾、材料の使用方法や内部空間の構成は歴史や文化伝搬の影響を強く受けることや、地方文化や地方経済と結びつき「地域的な型」を形成することなど、敷地環境の文脈を示す部分であることが示唆されている。しかしながら、ブータンにおける伝統住居に関する調査研究はまだ少ない。ブータンの建築に関する研究としては、ゾン Dzung (城塞と寺院と行政府の役割をもつ) やラカン Lhakhang (寺院) を対象としたものが主である⁶⁾⁷⁾。

ブータン伝統住居がもつ風土に根ざしたヴァナキュラーな建築としての価値については古市ら⁸⁾が指摘しているところである。ブータン伝統住居で展開されてきた持続可能な生き方や環境と共生する

* 習志野市都市整備部 博士(工学)
** 千葉工業大学 准教授・博士(工学)
*** 千葉工業大学大学院 学士(工学)

Narashino Municipal Office, Dr.Eng.
Assoc. Prof., Chiba Institute of Technology, Dr.Eng.
Graduate School, Chiba Institute of Technology, B.Eng.

知恵をよりよく理解するにはブータン人自身がどのように屋内空間を認識しているかについて知見を得ることがその一助となると思われる。その際、ブータンとは異なる文化圏・語族の言語である英語で室名を把握するのではなく、現地語における部屋名称を把握することができれば、かようなブータン人の屋内空間認識を理解する契機となると考えられる。先行研究には建築実測調査、デザイン・サーベイの成果は存在し、詳細な図面記録がとられているが、それら図面では室名は日本語又は英語表記で記載されるのみである。

例えば、岸本らはパロの古民家及び農家建築について、家系図、立地場所の特徴、建築物の構成、住民の生活、建物の平面図及び構成アイソメを調査・記録している⁹⁾¹⁰⁾。また、青木は伝統的建造物の保存修復手法や構造補強の方法確立のため、版築の伝統的な工法について地盤の常時微動測定調査の実施や版築の築造方法についての詳細な記録を残している¹¹⁾¹²⁾。しかしながら、これらの先行研究では伝統住居の屋内空間の基本構成や各部屋の使われ方にまで言及しているものはない。

本研究は以上の着眼から、調査対象地における現地語での部屋名称の調査を部屋の使われ方の聞き取り記録とともに実施するものである。

1-3. 伝統住居の概要

対象となるパロ県における伝統住居の特徴等について、本節では先行研究¹³⁾¹⁴⁾に基づき概要を整理する。

パロ県の伝統住居は3層又は4層建ての版築と木造の混構造からなり、各階によって空間構成は異なる。各階は取り外し可能^{注5)}な急勾配（勾配：60度以上）のはしご状の階段で繋がっている。

建材は地域に豊富にある土、石、木などである。建物基礎は石を土モルタルで積み、その上に、備熱性能が高く、冬の寒さや夏の暑さに対して比較的温度変化が少なく室内空間を快適に保つことができる版築の壁が築造される。二層目以上の構造は建物の中央部の壁が版築で、その周りの部屋の壁が木製である。版築部は厚さが80cmになるものもあり、極めて高い断熱性能を持つほか、耐久性もあり、100年以上の長期にわたって保持できる特徴がある。

これらの壁面には用途や設置位置に応じ開口部：Rayab（窓）、Mago（主たる出入り口）、Geykar（換気窓）が設置され、特に上層のRayab（窓）には男性器又は女性器を表す2種類の窓枠が存在しており、宗教的願いが込められた様で彩色された鮮やかな壁画や舟肘木と共に特徴的な外観を形成している（図2）。

また、屋根の小屋組みは躯体とは別構造で、陸屋根の上に梁（重ね梁含む）を輪雑込みで組んだ小屋組みを束で支えて載せてある。

1-4. 研究対象

(1) 研究対象地及び研究対象となる伝統住居

本研究はブータン政府公共事業省との共同調査であり、調査対象集落は規模としてまとまった戸数を持ち、また伝統的集落として保存状態のよい集落として同省から提案された候補の中から選定した。

調査対象集落はブータン王国西部、ブータン第2の都市・パロのあるパロ県内のチュバ（Chuba）及びアツォ（Atsuo）の2集落とした（図1）。両集落はパロの市街地から約7 km北に位置する。パロ市街には西からパロ・チュ^{注6)}、北からダ・チュが流れこみ、2つの

図1 研究対象地

表1 研究対象住居の概要

集落	住居番号	階数				建物正面の方位	主要な出入口の方位
		1層	2層	3層	4層		
チュバ	No.2	○	○	◎	○	南西	南西
	No.3	○	◎	○		南西	南西
	No.6	○	◎	○		東	東
	No.7	○	○	◎	○	南西	南西
アツォ	No.20	○	◎	○		南西	南西
	No.21	○	◎	○		北西	北東
	No.22	○	◎	○		南東	南東

【凡例】○該当する層が有り、◎主たる居住空間の層

図2 チュバ集落の伝統住居（No. 2）の外観

両集落の住居はいずれも前節で整理した特徴を持ち現在も居住の用に供している。その多くが築 100 年前後またはそれ以上の住居であり^{注7)}、本研究ではこれらをチュバ及びアツォ集落における伝統住居と定義し、この内チュバ集落 4 住居、アツォ集落 3 住居を対象とした(図 1、表 1、図 2)。

部屋名呼称の記録においては、住民より聴き取った現地ゾンカ語の部屋名呼称の発音を、本調査に同行した2名の英語-ゾンカ語通訳者にラテン文字表記でノートに記入してもらい記録した^{注10)}。なお、英語-ゾンカ語通訳者として、2013年調査ではブータン国立博物館学芸員、2014年調査ではこれに加えブータン政府公共事業省職員で建築・都市計画を専門とする担当者の協力を得た。

TAPTSON の東側の部屋は YOUKHA/YUKI と呼ばれている^{注12)}。

普段家族が座る部屋であると同時に、客をもてなすなど多くの活動がおこなわれる部屋である。この窓辺にはテーブルと椅子が設置されていたが、本来は床に座るスタイルである（図 6、後述参照）。

YOUKHA/YUKI の南側には CHOSHOM（仏間）に繋がる装飾が施された扉がある。CHOSHOM は外陣と内陣の 2 室からなる。中でも内陣を特に「TSHAMKO/TSAMKO」と呼ぶ住居もあり、No.6 でも内陣を TSAMKO と呼んでいた（以下、TSHAMKO とする）。YOUKHA/YUKI から CHOSHOM の外陣側に入って初めて TSHAMKO（内陣）を見ることが可能である。このように TSHAMKO は中心部空間の各室のなかでも最も奥に位置し、仏壇が設けられ、家の中で精神的に最も重要な聖なる空間となっている。No.6 の CHOSHOM の外陣は YOUKHA/YUKI と同様、川に面する方向に窓があり、室内は明るい。

一方の縁辺部空間は、No.6 の家の場合中心部空間の北側及び西側の 2 か所に YOUCHU/YUCHU^{注 13)}（側方への張り出し部）がある。北側 YOUCHU には上下層に繋がる階段がある。廊下はなく、部屋を通り次の部屋へと行く間取りであるため、北側 YOUCHU にある GOBANA（主要な出入口）から階段室を経由し中心部空間に繋がる。また、西側 YOUCHU が、JABYOUG（裏の空間）である。ここには現在 2 部屋あり PHUNG（食品の貯蔵場所）として使われている。

(3) 3 層目：収穫物等を乾燥・保存する空間（図 4、図 5）

最上階である本層の中心は、収穫した穀物や唐辛子、干し草等を乾燥し保管する YOUTAKHA/YOTO^{注 14)}（最上層、屋根裏）である。この YOTO に YOUCHU が付随する空間構成となっている。中でも YOTO の西側 YOUCHU には 2 部屋あり、一方が当主の息子夫婦の寝室として現在使われている。昔は別用途であったが、息子夫婦の結婚後家族全員が YUKI で寝るには手狭となったことから YOUCHU が息子夫婦の寝室となり^{注 15)}、使われ方が変化した。

3-2. 各部屋の使われ方の特徴

住居 No.6 の調査を通し、伝統住居の使われ方や空間構成における伝統的な部分と近代化に伴う変化の一例を確認することができた。

伝統的な部分としては、主たる居住空間の部屋の配置が挙げられ、なかでも BAKONA は他言語でとらえにくいブータン伝統住居に特徴的な空間として特筆される。また、YOUKHA の生活における中心性と多様な活動に対応する汎用性、またその奥にあって精神的な中心をなす仏間 CHOSHOM・TSHAMKO の重要性も挙げられる。

BAKONA については、YOUKHA に次ぐ面積をもつ部屋であり形状も四角い部屋であるにも関わらず、前述のとおり階段室と YOUKHA をつなぐ中間（「BA」）の間として廊下に近い認識でとら

図 6 窓辺の伝統的空間作法と着座例（No. 20）

図 4 住居 No. 6 の各層間取り

図 5 住居 No. 6 A-A' 断面図

【凡例】 ■ 版築部分

えられており、部屋としての認識は希薄なようである^{注16)}。

階段室つまり上下層につながる BAKONA の中に、カマドのある場所 THAPSHONA が設けられているのは換気の面で理にかなった伝統的構成であり、煙による殺虫燻蒸効果等もあったと考えられる。

次に、CHOSHOM 及び TSHAMKO の重要性はその床面積と配置から確認できる。2 層目（主な居住空間）の床面積に対する CHOSHOM 及び TSHAMKO の床面積比率は約 1/3 で最も広い部屋となっており、TSHAMKO は CHOSHOM（外陣側）以外からは見えない配置となっている。このことは、伝統住居における TSHAMKO の重要度の高さと神聖性を示唆しているものと考えられる。

一方、近代化に伴う変化の現われの一つ目は YOUKHA (YUKI) の窓辺に椅子とテーブルが設置されていたことである。前述の通り、本来は床に座るスタイルであり、古来の伝統においては、YOUKHA

には ZAPEN と呼ばれる男性当主が座る席が決められていた。そこには ZHUDEN と呼ばれる当主専用の座布団が設えられ、当主が座った。その男性当主の席が設えられるのは、YOUKHA の中でも窓に最も近い場所であった。来客や家族等は、当主を取り囲むようにして輪になって座り、窓に近いほうから上座となる。子供などは下座、つまり窓から最も遠い席となる（図 6）。

加えて、本来 YOUKHA (YUKI) は、時に応じて使われ方が変わる部屋である。例えば、常時には家族団欒の場所として、就寝時には寝室として、来客時には応接部屋として、葬礼の際には一連の弔いに伴う行事に関連して使われる。その中で、人が集まる際には窓辺に座る当主を必ず一重の輪で囲む空間作法があった。つまり、従来は人数に応じて輪の大きさを変えることで、少人数から大人数の集まりまで臨機応変に対応できる部屋であった。しかしながら、椅子やテーブルを設置することで、現在も窓辺が「座る」という行

図 7 各伝統住居の主たる住居空間である層の間取り概要図

為を行う場所であることという伝統的な空間認識はあるものの、No.6 の場合は YUKI の約 13%にあたる空間が椅子等により占められ「限られた人数が座る空間」という使われた方に変化していた。

二つ目は、YOUCHU が息子夫婦の寝室として使われるようになった点である。前述のとおり、従来の伝統住居では YOUKHA(YUKI) が寝室の役割を内包しており、西欧の「BED ROOM」に相当する専用の部屋はなかった。それが近代化に伴い他文化圏の情報や習慣がブータン西部にも伝播したことで、「息子夫婦の寝室」という個人で機能別の部屋を有する「部屋の個室化」が見られるようになった。また、No.6 ではなかったが類似例として No.4 では僧侶が座し祭祀

を行う CHOSHOM 外陣側の一角を子供部屋として使用していた。YOUKHA の隣室であり、中心空間の一角を構成している部屋であることから、個室化した YOUCHU と比べると密度度は低いものの、使われ方の変化の一例といえる。なお、CHOSHOM には、主要な宗教儀式 Puja の際に僧侶が泊まることもあり、主人と男性の客人は CHOSHOM で寝てもよいが女性是不可という伝統的な空間作法があったが、現在ではこれは崩れつつある。

これらの変化は、縁辺部空間にあり、増築による設置も可能な YOUCHU が最も個室化しやすい空間であることを、また床面積の大きい CHOSHOM（外陣側）が中心部空間の中では個室化や本来

表 2 各伝統住居の調査時における各部屋の使われ方及び存在する階層の一覧

	部屋の使われ方（用途）	部屋名称（通訳 2 名 による現地 DZONGKHA 語のラテン文字表記）	部屋名称（ENGLISH）	伝統住居別、各部屋が存在する階								備考
				No. 2	No. 3	No. 6	No. 7	No. 20	No. 21	No. 22		
GROUND FLOOR	食品の貯蔵	PHUNG	STORAGE			1F		1F		1F		
	倉庫（元牛部屋）	OKA	STORAGE		1F			1F			昔牛部屋として利用して いた家有り（No. 20 など）	
	牛部屋（家畜小屋）	OKA/OKONA	STORAGE				1F		1F		NA は屋内を意味する	
	米の貯蔵	MITHU	STORAGE		1F							
	米の貯蔵	MITONA ^{注18)}	RICE GRAIN				1F				NA は屋内を意味する	
	牛の飼料の貯蔵	SATAO	STORAGE		1F						SATAO は「牛の」という 意味。	
	牛の寝床用干し草の貯蔵	SHOMA	CAW SPACE						離 1F			
MIDDLE FLOOR	中間の階・1階とメインフロアの間にある階	BACHI/BAKHE	MIDDLE FLOOR	2F			2F					
	主要な出入口の階段踊り場スペース	TEYL IKHA	ENTRANCE				2F				略称 TEYL R	
	台所（人用の炊事場）	TAPTSON	KITCHEN				2F					
	便所	CHAPSA/CHAPSHONA	TOILET	2F								
	食品の貯蔵	PHUNG	STORAGE				2F					
MAIN FLOOR	主要な出入口・主要な出入口から繋がる部 屋・空間（階の入り口の部屋）	GOBANA/GOBA	ENTRANCE		2F	2F	3F			2F	GO は DOOR という意味。	
	居間・家族が集まる部屋・客を通す部屋	BAKO	LIVING ROOM		2F							
	寝室	BACONG/BACO	BED ROOM	3F						2F		
	人用の炊事場、元々カマドのある場所	TAPTSON/THAPSHONA	KITCHEN	3F	2F	2F		2F			空間的には BAKO にある。 冬場最も使う部屋（No. 6）	
	昔は炊事場、現在は座ったりする部屋	TAPTSON/THAPSHONA	SITTING AREA					2F	2F		空間的には BAKO にある。	
	居間・家族が集まる部屋・客を通す部屋	YOUKHA/YUKA/YUKU	LIVING ROOM	3F	2F		3F		2F	2F	YUKA・YUKU は YOUKHA と 同じ意味。	
	居間・家族が集まる部屋・客を通す部屋・ 葬礼に伴う諸々の行事を行う部屋	YUKO	LIVING ROOM					2F			No. 20 の家にて葬礼に伴 う行事を行っていた。	
	居間・家族が集まる部屋・客を通す部屋・ その他、活動の場	YUKI	LIVING ROOM			2F					YUKI は YOUKHA の Ha 方言 （Ha はバロの隣県）	
	仏間	CHOSHOM	BUDDHIST ALTAR ROOM		2F							
	仏間の内、仏壇のある部屋（内陣）	TSHAMKONG/TSAMKO/ TSHAMKO	BUDDHIST ALTAR ROOM	3F		2F				2F		
	仏間の内、仏壇のある部屋（内陣）	CHOSHOM TSAMKO	BUDDHIST ALTAR ROOM				3F	2F				
	僧侶が座る部屋、仏教儀式準備室（外陣側）	CHOSHOM/CHOSYOM	BUDDHIST ALTAR ROOM	3F		2F				2F	CHOSHOM/CHOSYOM は二間 続きの仏間全体も指す	
	仏間、現在は寝室（外陣側）	CHOSHOM/CHOSYOM	BUDDHIST ALTAR ROOM						2F		CHOSHOM/CHOSYOM は二間 続きの仏間全体も指す	
	僧侶が座る部屋、仏教儀式準備室（外陣）	CHOSYOM YUKO/CHOSHOM	BUDDHIST ALTAR ROOM					2F				
	僧侶が座る部屋、仏教儀式準備室（外陣）	CHOSYOM YUKA/CHOSHOM	BUDDHIST ALTAR ROOM				3F					
	現在は子供たちの部屋	YOUCHANA	DHILD ROOM		2F							
	倉庫	YUCHU/YOUCHU	STORAGE							2F		
	3階（収穫物等の乾燥・保存）につながる 部屋。主要な出入口を入ってすぐの部屋。	YOTO				2F					YOTO は YOUTAKHA の略称。 3F の YOTO と同じ空間と して一体的に認識（No. 6）	
	主要な出入口の階段踊り場スペース	TEYLI	ENTRANCE				3F		2F		正式名称) TEYL IKHA	
	食品の貯蔵	PHUNG	STORAGE	3F	2F	2F		2F	2F			
	木材（燃料）の貯蔵	名前なし	STORAGE				2F					
	便所	CHAPSA	TOILET				2F					
TOP FLOOR		YOUNGTHO	TOP FLOOR/ATTIC	4F								
	収穫物等の乾燥・保存場所	YOUTAKHA/YETAKA/ YOTO	TOP FLOOR/ATTIC			3F	4F		3F		YOUTAKHA の略称が YOTO。	
		YUTO	TOP FLOOR/ATTIC					3F		3F		
	牛のエサ用干し草倉庫	YUTAKA	STORAGE						離 2F			
	増築部分の保管場所	YUCHU TOKA	TOP FLOOR/ATTIC			3F						
息子夫婦の寝室	YUCHU	BED ROOM			3F							

【凡例】

空間としての名前で呼んでいる呼称
階層としての名前で呼んでいる呼称

の使われ方以外にも使用されやすい空間であること示唆している。

以上のことから、近代化に伴う空間作法の変化や部屋の個室化が進行している状況の一端を把握したといえるのではないかと考える。

4. 屋内空間の構成とゾンカ語の部屋名呼称の特徴

本章ではまず屋内空間の概要を横断的に整理した上で、現地ゾンカ語の部屋名呼称の特徴を整理する。

4-1. 屋内空間の特徴

第3章でみた No.6 の例の通り、伝統住居は各階によって空間構成が異なり、1 層目は家畜部屋又は倉庫や貯蔵などに用いられる非居住空間、その上層は主たる居住空間、最上層は収穫物等の乾燥・保存場所であり、これは調査した全伝統住居に共通している。また平面構成も、1 層目は家畜部屋を、居住空間は BAKO/BAKONA、YOUKHA、CHOSHOM、TSHAMKO からなる田の字の構成を、最上層 YOUTAKHA は乾燥・保存場所とされている点も共通している。各層における共通点は次の通りである。

1 層目は家畜部屋又は倉庫・貯蔵場所などに用いられる。家畜部屋を別棟に移した No.6、No.7 及び No.21 以外の伝統住居では 1 層目は農具や穀物の倉庫として利用されている。元々居住空間ではないためか、この層の部屋には窓がなく、日中であっても室内は暗い。壁は版築で、各部屋は扉でつながっている。

2 層目は、建物内部に 1 層目から 2 層目へ繋がる階段がなく、外部に設けられた階段を使い、2 層目の入り口から内部へ入るようになっている。ただし、4 層建ての場合と 3 層建ての場合では 2 層目の空間構成と使われ方が異なる。

4 層建て 2 住居 (No.2、No.7) のうち、No.2 の 2 層目 (BACHI と呼ばれる層。後述参照) には便所と特定の名前のない室が、また No.7 は食品の貯蔵場所、炊事場が設けられている。

3 層建ての場合は 2 層目が主たる居住空間であり、4 層建ての場合には 3 層目がこれに該当する。主たる居住空間の層には英語の「MAIN FLOOR」に相当するような特定の層の名前が存在しない。

中心部空間の構成は共通しているが、住戸毎に間取りは異なり、調査対象の各伝統住居におけるこの層の間取りは図 7 の通りである。この中心部空間うち YOUKHA と CHOSHOM は先行研究では日照通風の良い東南隅に配置されることが多いとされるが²⁰⁾、本調査ではその法則性は見いだせなかった¹⁷⁾。YOUKHA は家族が集まる部屋、共同で農作業にあたる結の仲間や客を通す部屋などとして住居の中で最も多様な活動が行われており、夜も家族がここで集まって寝るなど家族が集う中心的な空間となっている。調査中には No.20 の伝統住居で葬礼後の一連の弔いに伴う行事に関連して YOUKHA (YUKO) が使われる例もみられた。二間続きとなっている仏間 CHOSHOM のうち、外陣は僧侶が座し祭祀を行うほか、祭祀の準備や儀式に用いる道具類を保管する用途に用いられる。その奥には TSHAMKON (内陣) が設けられ、部屋全体が仏を祀る座となっている。この二間続きの構成は全ての住戸に共通した配置であった。

一方、BAKO/BAKONA の空間の使われ方は住居によって異なる。No.2 及び No.22 は家族が寝る場所として、No.3、No.20 は YOUKHA に次ぐ機能を持つ部屋として、No.6 は THAPTSON として使用している。No.7 は元々、食事を作る場として使用していたが、現在は固定の機能や部屋名呼称を付与されていない¹⁹⁾。

また、縁辺部空間の呼び名や使われ方は住居によって異なる。

No.2 及び No.20 では TAPTSON、PHUNG、No.3 は TAPTSON、PHUNG、子供たちの部屋として使われる YOUCHANA、No.6 は PHUNG、No.7 は木材貯蔵場所である部屋名呼称のない空間、PHUNG、No.21 では PHUNG、家族が座る空間、No.6 は倉庫として使用されている YOUCHU として使われている。全ての住居で、縁辺部空間は何かを貯蔵する場所として使っている。

また、縁辺部空間には No.2、No.3、No.20 で TAPTSON が、No.7 では CHAPSA (便所) といった水を使用する部屋が配置されていた。TAPTSON は中心部空間に設けられる場合も縁辺部空間に設けられる場合もある。なお、炊事道具に関し、No.2、No.20 では木造の床の上の土間にカマドを設置した昔ながらの方法で炊事をしている一方、No.3、No.6 では現代的な流しやコンロなどに変わっていた。

最上層は壁がなく、直射日光の当たらない半外部空間で風通しが良いことから、全ての住居で干し草、唐辛子、山椒、干し肉などの乾燥・保存場所に用いられている。

以上、部屋名呼称と空間の使われ方に着目した調査により、各層の中心となる空間の使われ方は全ての伝統住居に共通していること、中間階 (BACHI)、中間の間 (BAKO)、縁辺部空間 (YOUCHU) の使われ方は各伝統住居で差異があることを確認できた。

4-2. ゾンカ語の部屋名呼称

ブータンの部屋名呼称は、英語圏と同じように機能によって特定の部屋名呼称で呼ばれる場合と、空間としての名前と呼ばれる場合とがある (表 2)。

(1) 機能に基づく部屋名呼称

特定の機能を有する部屋に対して名前が付与されていたものは、GOBA (主要な出入口)、MITHU (米の貯蔵)、OKA (牛部屋)、SATAO (牛の飼料部屋)、SHOMA (牛の寝床用干し草倉庫)、及び THAPSHONA/TAPTSON (炊事場) である。

仏間にあたる部屋は、No.3、No.21 では内陣外陣の区別なく仏間全体を CHOSHOM と呼んでいたが、他の住居では内陣を特に CHOSHOM TSHAMKO/TSHAMKONG/TSHAMKO と呼んでいた。

これらの部屋は、機能に対応した部屋名呼称が付けられるため、設置場所や住居によって異なることはなく、他言語との対応が比較的容易である。ただし、英語表記で storage となる部屋については、ゾンカ語ではその部屋に保管する物によって呼び方が異なるため、使われ方を把握した上で対応した部屋名呼称を選定する必要がある。逆にいえば食品は PHUNG、米は MITHU、飼料は SATAO といったように貯蔵する食品、農作物や飼料等によって貯蔵場所の部屋名呼称が異なることこそが、伝統的農村の暮らしとそこにおける価値体系を映すものともとらえられ、ゾンカ語およびブータン伝統住居に特徴的な点であるといえよう。

(2) 空間としての部屋名呼称

BAKO/BAKONA/BACO/BACONG (中間の間、つなぎの空間)、YOUCHU/YUCHU (側方への張り出し部)、JABYOUNG (裏の空間)、といったように、機能ではなく空間としての名で呼ばれている空間がある。YOUTAKHA/YETAKA/YOTO (最上層、屋根裏) や BACHI/BAKHE (中間層) などの階層の名称も類似のものともとえられる。

YOUTAKHA/YETAKA/YOTO に関し、No.6 では階が異なるもの

の、この直下階にあり、YOTO と階段で繋がっている部屋を、同一の空間として認識しており、同じく YOTO と呼んでいる。

YOUCHU の用途は倉庫や子供部屋など、各住居によって異なるほか、同じ住居であっても使われ方が変更されやすい。

次に、「部屋と部屋の間の空間」を意味する BAKO/BAKONA/BACO/BACONG の使われ方は No.2、No.23 では寝室、No.3 では居間などになっており、YOUCHU と同様に各住居によって異なる。

同様に、「中間層（主要な居住空間が 3 層目にある住居では 1 層目と 3 層目の間の層）」は BACHI/BAKHE と呼ばれている。この層にある部屋は必ずしも特定の部屋名呼称がつけられるとは限らず、単に BACHI/BAKHE と呼ばれる場合がある。

最後に、No.2、No.6、No.7、No.22 にある JABYOUNG はバックルームにあたる空間であり、YOUKHA や CHOSHOM を表の空間と捉えた場合の裏の空間である。ここに位置する部屋に機能に基づく部屋名呼称があっても住民はこの空間を JABYOUNG として認識しており、通訳がゾンカ語で空間ではなく機能による特定の部屋名呼称があるか質問して初めて各部屋名呼称を答える場合もあった。

(3) その他

特定の部屋名呼称が無い場合、過去の使われ方に基づく名で呼ばれる場合、本来用途以外の使われ方が付加されている場合があった。

特定の部屋名呼称が無かったものは No.6 と No.7 である。No.6 では増築部分の部屋に、No.7 では過去に炊事場として使っていたものの現在は特定目的で使われていない部屋と JABYOUNG に位置する部屋に、部屋名呼称がなかった。

過去の使われ方に基づく部屋名呼称は No.3、No.20、No.21 にある。No.3 及び No.20 は過去に牛部屋として使用していたが、現在は別棟に牛部屋を移築したことで倉庫として利用している部屋を今でも OKA（牛部屋）と呼んでいる。同様に、No.20、No.21 では、過去に炊事場として使われていたが後に炊事場を別に設けたことで現在は家族が座るなどの集まる場として使われている部屋を今も TAPTON（炊事場）と呼んでいる。

4-3. 屋内構成と呼称の特徴

対象とした 7 住居を横断的に調査した結果、得られた各層の空間構成及び部屋名呼称の特徴は以下の通りである。

- 1) 伝統住居は層によって空間構成が異なり、1 層目は家畜部屋又は倉庫・貯蔵などに用いられる非居住空間、その上層に主たる居住空間があり、最上層は収穫物等の乾燥・保存場所である。
- 2) YOUKHA（居間、客間、寝室などの多用途で使われる生活の中心空間）及び CHOSHOM（二間続きの仏間）とその内陣 TSHAMKO は必ず主たる居住空間に設置され、そこに至るつなぎの空間である BAKO(NA)を併せて居住空間の中心となっている。伝統住居はこの中心部空間と、それ以外の YOUCHU などからなる縁辺部空間で構成されている。
- 3) 部屋名呼称は機能、空間、設置場所等で決まる。そのため他言語で室名を記録した場合、結果的に部屋の使われ方や、部屋や空間のもつ性質が分かりにくくなる場合がある。
- 4) 同じ使われ方であっても家によって部屋名呼称が異なる場合がある。また、空間としての部屋名呼称（YOUCHU、JABYOUNG など）の場合は特に家によって使われ方が異なることが多い。

この為、伝統住居では部屋名呼称と併せ、使われ方や空間としての本来の性質や位置づけを確認することが重要と考えられる。

5. 本稿のまとめ

チュバ及びアツォ集落の伝統住居を対象に実施した 2 回の実測・実踏とヒアリング調査を通し、屋内空間の基本構成と各部屋の現地ゾンカ語呼称および各部屋の使われ方を把握し、伝統住居の特徴に関する以下の知見を得た。

- 1) 伝統住居は層によって空間構成が異なり、1 層目は家畜小屋又は倉庫・貯蔵などの非居住空間、その上層に主たる居住空間があり、最上層は収穫物等の乾燥・保存場所である。主たる居住空間がある階層の空間構成は、YOUKHA（居間、客間、寝室など多用途で汎用に使われる部屋）、CHOSHOM（外陣及び内陣 TSHAMKO からなる二間続きの仏間）、BAKO(NA)（中間の間、つなぎの空間）から成る中心部空間と、その周囲にある縁辺部空間（YOUCHU など）である。そのうち YOUKHA は最も多様な活動が行われる空間であり、伝統住居の生活における中心的な空間となっている。一方、CHOSHOM は二間続きとなっており、手前に僧侶が座る外陣、その奥に TSHAMKO（仏壇のある部屋・内陣）が設けられており、空間構成の上でも重要かつ神聖な空間となっている。
- 2) 部屋名呼称は機能、空間、設置場所等で決まる。また、同じ使われ方であっても家によって名前が異なる場合や、空間としての部屋名呼称の場合（YOUCHU、JABYOUNG など）など家によって使われ方が異なることがある。そのため他言語で室名を記録した場合、部屋の使われ方や、その部屋や空間の本来の性質が分かりにくくなる場合がある。特に、階段室と YOUKHA の間にある BAKO/BAKONA の空間は、炊事場（カマド）を具えていることで kitchen と訳されやすいが、部屋というより通路的な空間認識でとらえられておりプータン伝統住居に特徴的な空間として特筆される。また、貯蔵場所は、食品、米、飼料など貯蔵するものによって細かく部屋名呼称が分かれる点に特に注意が必要である。
- 3) 窓辺が上座であることから、プータンにおける室内の空間構成を把握するために窓の位置は重要なものである。しかしながら生活の中に西欧文化が導入されたことで、家具の設置による用途の固定や部屋の個室化などがみられるようになり、窓辺等の空間作法も変化しつつある。本研究では伝統住居の使われ方や空間構成について、伝統的な部分と近代化に伴う変化の一端を確認することが出来た。

本稿はプータン西部の二集落内における伝統住居の調査を実施し、屋内空間の構成とその使われ方についてプータンの伝統住居の特徴を記録することができたと同時に、プータンの近代化による急速な変化の一端を併せて記録することができたものとする。

一方、同じ使われ方をする部屋の部屋名呼称が複数存在することも本調査で確認できた。この理由として部族間の交流によりチュバ集落及びアツォ集落外で使用していた呼び名を調査対象が使用していた場合、ゾンカ語の発音をラテン文字表記した際の表記揺れの場合等いくつかは判明したが、判明しきれなかったものもあり、さらなる調査が必要であり今後の課題とする。

なお、本稿では紙幅の関係上、平面空間構成にのみ論じており、断面空間構成については次稿以降で論じるものとする。

謝辞

現地調査全体に多大なるご尽力、ご協力、資料提供等をいただいた
ブータン王国政府公共事業省 Meghraj Adhikari 氏、Ugyen M
Tenzin 氏、Tashi Penjor 氏、古市徹雄先生、遠藤政樹先生、小泉
俊雄先生、また特に通訳協力をいただいた Deki Yangzom 氏、
Yangchen Lhamo 氏、さらに本研究の構想から現地調査まで各部に
大変貴重なご助言ご協力と温かい応援を下さいました栗田靖之先生、
元倉真琴先生、星泉先生、永村裕子氏、川崎英明先生、千葉工業大
学ブータン伝統住居実測調査団メンバーに心より感謝申し上げます。
なお、本研究の一部は科研費（25501004）を受けた。

注

- 注 1) ブータン政府統計局データ (<http://www.nsb.gov.bt/main/main.php>,
accessed 2015.4.1) に基づくと、首都のあるティンブー県の人口は 2010
年以降毎年前年比約 11%増で増加している。
- 注 2) 自動車免許取得者数は 2008 年の 47,409 から 2013 年 91,010 に増加した
他 (National Statistics Bureau, Royal Government of Bhutan: Statistical Yearbook
of Bhutan 2014. ISBN 978-99936-28-24-8, 2014.10)、ブータン政府統計局デ
ータ (<http://www.nsb.gov.bt/main/main.php>, accessed 2015.4.1) に基づくと、
テレビの世帯普及率は 55.3%になった。
- 注 3) 法令上は 30 度以上の傾斜地では一切の建築行為が禁止されている。
- 注 4) 筆者らが聴き取りを行った際に、ブータン王国政府公共事業省人間居
住局都市専門官は、ブータン伝統住居で育った者には他では培われない価
値観が備わると述べ、現在の政府職員のほとんどを占める地方部の伝統住
居で育った世代が今後引退し、都市部で育った次世代のブータン人が国の
将来についての判断を担う時代が来れば、現在の現役世代とは異なる判断
や舵取りを行なう可能性があることを大変懸念していると述べていた。
(2013 年 9 月 19 日)
- 注 5) 親族や知人以外の外来者を泊める際、危害や盗難リスクに備えてはし
ごを取り外しておき階下へ自由に行き来できないようにするのだとのヒア
リング結果もあり、そのような防犯上の利点もあったようである。
- 注 6) 「チュ」は「川」の意味。
- 注 7) ヒアリング結果に基づく。
- 注 8) 建物の実測と地形の測量の成果については参考文献 15) にまとめられて
おり、このうちチュバ集落 8 住居の平面図・立面図・断面図については
pp.58-153 に掲載されている。
- 注 9) 2013 年は 8 住居を対象としたチュバ集落だが 2014 年調査では調査期間
の制約のため、詳細なヒアリング調査が可能であった 4 住居を対象とした。
- 注 10) ゾンカ語 (各地の方言含む) の発音をラテン文字表記する際の表記法
(綴り方) はブータン国内で特に統一されていない。そのため、本調査にお
いて部屋名称の発音をラテン文字表記でノートに記入してくれた 2 人の
通訳の間で表記揺れがみられた。例えば、同じ発音に対して YOUKHA と
YUKA というように異なる表記となるケースが多々あった。本論文では通
訳者によるノート記入表記を極力忠実に記載しつつ、表記揺れ又その他の
原因で複数の表記がある場合には必要に応じ補注を加えることとする。
- 注 11) No.6 に対しては 2013 年調査でブータン国立博物館学芸員を通訳とし
て初回調査を、2014 年はブータン政府公共事業省建築系職員を通訳として
再度詳細調査を行っているが、通訳 2 名の間で発音のラテン文字表記に違
いがあり、1 人目の通訳は THAPTSHONA, 2 人目の通訳は TAPTSON と
表記した。なお調査全体を通じ、実際には BAKONA と呼んでいても調査
者に「この部屋は何か?」「室名は?」と問われると kitchen=THAPTSHONA
であると答える傾向があり、調査には後出注 16 にも示す難しさがあった。
- 注 12) この部屋はパロ地方で一般に YOUKHA (1 人目の通訳者による表記。
2 人目は YUKA と表記。いずれも「ユカ」と聞こえる同じ発音) と呼ばれ
る部屋であるが、この家ではパロ地方に隣接するハ (Ha) 地方の方言で
YOUKHA を指す呼称「YUKI」で呼ばれていた。婚姻などによる交流はし
ばしばみられ、それにより隣県の方言での呼称が伝わったものと思われる。
- 注 13) 2 つの表記は通訳者間の表記揺れであり発音は同じ「ユチュ」である。
- 注 14) 最上層の呼称としてパロで一般的なのは YOUTAKHA (1 人目の通訳
者の表記。2 人目の通訳者は YUTAKA と表記。いずれも「ユタカ」と聞こ
える同じ発音) という呼称であるが、この家では YOUTAKHA の短縮形で
ある「YOTO」で呼んでいた。
- 注 15) 息子夫婦以外の家族は現在も YUKI で就寝する。
- 注 16) BAKONA は家により単に BAKO と呼ばれる場合も多い。NA は屋内
(の空間や部屋) を意味する接尾語であり、他の様々な部屋名称の語尾に
もつけられる。しかし今回調査では厳密には NA がどのような空間認識の

- もとにつけられるかまでは把握しきれなかった。なお、BAKONA が部屋名
としては英語に対応する語がなく、また THAPSHONA を含み、かつ大きな
四角い部屋であるため、部屋であるという認識があると思い込んで英語で
この部屋は何という部屋かと質問してヒアリングすると kitchen との答え
が返ってきがちであるが、この部屋全体を台所と呼ぶには広すぎるのは明
らかであり、がらんだりの部屋の片隅に炊事場がついた格好になっている。
- 注 17) ブータン政府公共事業省人間居住局都市専門官にブータンの一般的
な伝統住居の向きを聞いたところ、理想的・宗教的には東向きがよいが、通
常は、僧侶の住居などの特別な場合を除き、伝統住居は地形に沿って建て
られ、その向きは土地の低い方が正面となる場合、次に川を向いて建てら
れる場合があるとのことであった。また、道がある場合にそれに沿う場合
もあるとのことであった。
- 注 18) 「NA」は屋内 (の空間や部屋) を意味する。前出注 16 参照。
- 注 19) この伝統住居は 2011 年シッキム地震による建物被害があったため、
調査時点でもこの部屋を含む 3 階の一部が使用できない状態であった。

参考文献

- 1) 花崎皋平：身体、人称世界、間身体性—親密圏の基礎を問う、斎藤純一編
「親密圏のポリティクス」ナカニシヤ出版所収、2003
- 2) 杉浦 直：東北地方における農村家屋母屋間取り形態の地域的差異と特色、
-1-, アルデスリベラレス No. 32, pp.1-28, 1983.07
- 3) 千森督子, 山本新平, 増田亜紀 et al.: 紀南の民家の地方性と近代化過程
に関する生活史的研究, 熊野型民家の平面構成の特性と変遷, 住宅総合研究
財団研究論文集, No. 35, pp.179-190, 2008
- 4) 木多道宏, 土田冨恵子, 横溝愛 et al.: イスタンブール低所得者居住地区にお
ける生活環境の持続のしくみに関する研究, その 2, 住居の間取りの類型と
街路空間との関係性, 日本建築学会大会学術講演梗概集, 建築計画,
pp.1313-1314, 2013.08
- 5) 海日汗: モンゴル族住居の空間構成概念に関する研究: 内モンゴル東北地
域モンゴル族土造家屋を事例として, 日本建築学会計画系論文集, No. 579,
pp.179-186, 2004.05
- 6) 中島伸, 久世啓司, 鈴木 敬雄, 前田昌弘: 歴史的建造物の現状と調査プロ
グラムの概要, ブータンの歴史的建造物に関する調査報告, その 1, 日本建
築学会大会学術講演梗概集, 建築歴史・意匠, pp.439-440, 2005.07
- 7) 野間晴雄: ゾン (Dzong) 考, ブータンにおける城塞の立地・形態・機能, 研
究年報 (奈良女子大学文学部), Vol. 40, pp.73-101, 1996.03
- 8) ブータン王国建設省, 千葉工業大学建築都市環境学科ブータン伝統住居実
測調査団, 古市徹雄 et al.: ブータン伝統住居, ADP, 2010, pp.209-210
- 9) 岸本章, 多摩美術大学ブータン調査グループ: 旅の写真帖から, ブータン
の民家, -1-, パロ谷の農家, 住宅建築, No. 271, pp.152-155, 1997.10
- 10) 岸本章, 多摩美術大学ブータン調査グループ: 旅の写真帖から, ブータ
ンの民家, -4-, パロの古民家, 住宅建築, No. 274, pp.176-179, 1998.01
- 11) 青木孝義, 富永善啓, 江面嗣人 et al.: ブータン王国における民家等の
伝統的建造物保存修復に関する研究, その 1 常時微動測定結果, 日本建築
学会大会学術講演梗概集, 建築歴史・意匠, pp.495-496, 2012.09
- 12) 江面嗣人, 友田正彦, 青木孝義 et al.: ブータン王国における民家等の
伝統的建造物保存修復に関する研究, その 3 版築の工法について, 日本建
築学会大会学術講演梗概集, 建築歴史・意匠, pp.563-564, 2013.08
- 13) ブータン王国建設省, 千葉工業大学建築都市環境学科ブータン伝統住居
実測調査団: ブータン伝統住居, ADP, 2010, pp.174-204
- 14) 阿久井喜孝: ブータン王国の伝統的民家と集落に関する調査研究, 東京
電機大学総合研究年報, No.15, pp.27-38, 1996.5
- 15) ブータン王国建設省, 千葉工業大学建築都市環境学科ブータン伝統住居
実測調査団: ブータン伝統住居 IV, 西部チュバ・ニャンメイ編, 2015.08
- 16) 金子将大, 中島崇宏, 川崎英明 et al.: ブータン王国西部地方における
伝統的集落調査, その 4 土地利用現況図の作成, 日本建築学会大会学術講演
梗概集, 農村計画, pp.139-140, 2015.09
- 17) ブータン政府観光局, <http://www.travel-to-bhutan.jp/>, 2015.12.20 閲覧
- 18) 宮下史明, GNH (国民総幸福量) の概念とブータン王国の将来: GNP か
ら GNH へ, 早稲田商学, No. 420・421 合併号, pp.39-74, 2009.09, p.53
- 19) 独立行政法人国際協力機構, ブータン王国貧困プロファイル調査 (アジ
ア) 最終報告書, 2010.8, p.7
- 20) 阿久井喜孝: ブータン王国の伝統的民家と集落に関する調査研究, 東京
電機大学総合研究年報, No.15, pp.27-38, 1996.5

A STUDY ON THE SPATIAL ORGANIZATION OF FLOOR PLANS OF TRADITIONAL BHUTANESE HOUSES IN TWO VILLAGES CHUBA AND ATSUO, PARO DZONGKHAG, KINGDOM OF BHUTAN

Focusing on the name of each room/space in local Dzongkha language and room use

Aya ISONO *, *Akiko YOSHIMURA* ** and *Shota KANEKO* ***

* Narashino Municipal Office, Dr.Eng.

** Assoc. Prof., Chiba Institute of Technology, Dr.Eng.

*** Graduate School, Chiba Institute of Technology, B.Eng.

The original lifestyles in traditional Bhutanese houses are at risk of disappearance due to ongoing rapid modernization. This study aims to understand the spatial organization inside traditional Bhutanese houses through an empirical survey in Paro, Western Bhutan, on the uses of rooms and their names in local Dzongkha language.

The research objects were seven traditional houses located in two communities, Chuba and Atsuo, located about seven kilometers north of the urban area of Paro, which is the second-largest city in the western part of the Kingdom of Bhutan.

An on-site survey was carried out in the two villages to record the local Dzongkha name and the use of each room. In addition, the basic patterns of spatial organization and the use of each room/space were clarified and classified, and the following information on the characteristics of traditional houses in Atsuo and Chuba was ascertained.

- 1) The spatial arrangement of the traditional houses is different on each floor. The first floor is a non-residential space, which used to function as a barn for livestock and is now used for purposes such as storage. The living space is above this floor, and the top floor is a drying and storage space for the harvest.
- 2) The basic spatial organization of the main floor is, in order from the entrance, an intermediate space (*Bako* in Dzongkha), a living room (*Youkha*), and the Buddhist family chapel (*Choshom*) with an inner altar room (*Tshamko*). The main floor of three-story buildings is on the second level and that of four-story buildings is on the third level.
- 3) Common among the houses is the fact that the living room (*Youkha*) sees the most diversity in use and is regarded as the central space of life activities, while the Buddhist family chapel (*Choshom*) is the spiritual center of the house. The window side in the living room (*Youkha*) is the primary place for the view, sun and wind, and traditionally had precedence. The layout of the Buddhist family chapel, in which two rooms are joined together with the outer sanctum placed at the room entrance side and the inner sanctum placed at the far end, indicates its significance and high sanctity.
- 4) The ways of recognizing spaces find their expressions in local Dzongkha names, which differ from room names in English, thus reflecting the difference between cultures. Some names in Dzongkha (e.g., *Bako*, *Youchu* and *Jabyong*) express the placement of the space in the overall spatial organization rather than the room functions, as is the case in English. Also, Dzongkha room names for storage areas differ according to what is stored (e.g., *Phung* for food storage, *Mithu* for rice storage and *Satao* for fodder storage). These spaces/rooms do not have exact English translations, and it would be irrelevant to apply existing English room names to them. This should be noted for understanding the spatial organization, actual use and original characteristics of each room/space in traditional Bhutanese houses, which fostered Bhutanese people for a long time and engrave wisdoms on how to and what is to live in harmony with the environment.

(2015 年 7 月 10 日原稿受理, 2016 年 3 月 8 日採用決定)